生活から生まれる良質な環境デザインの研究(2)
—日本・英国田舎町の街並み環境デザインの研究—

小林 令明

目 次
1 はじめに
2 ニセコ町街並み形成の経緯
  2 - 1 ニセコ町の位置・人口・気候
  2 - 2 ニセコ町の産業
  2 - 3 ニセコ町本通街並み環境整備の歴史
  2 - 4 ニセコ町まちづくりの基本姿勢
  2 - 5 ニセコ町街並み環境デザイン方針と方法
  2 - 6 ニセコ町街並み建設実行
3 建設後のニセコ町「緑羅街道」普段生活の外観調査
4 バーフォードの外観デザインの特色
5 ニセコ町及びバーフォード自然環境の相違が建物に及ぼす影響
6 日本の文化面の事情
7 結論

1 はじめに

日本の田舎町の街並みには豊かというより貧しいイメージがある。一方イギリスの田舎町の街並みには都会以上に魅力的な美しさと豊かさがあり日本とはかなり違う。

歴史的には日本もイギリスと同様長い歴史があり日本における歴史豊かな田舎町の街並みの例では日和山県南予町の街並みの保存運動に重点をもっている傾向が顕著であるが、住み心地の良さを追求するよりも歴史的街並み環境保存を中心活動していた。

一方歴史的蓄積の少ない北海道では街並み保存ではなくもはや時代の流れに取り残され活力を失った現状の街並み環境をより良い生活環境を求めて街並み起こしが盛んに行われている。この中からニセコ町の街並み起こしを分析することにより現代日本の新街並み環境の姿を追いイギリスの田舎町コッツウォルズ地方バーフォードの街並み環境デザインエレメントを比較することで日本の街並み環境デザインのあるべき姿とそれを実現する行為には何が必要とするかを考察するものである。

2 ニセコ町街並み形成の経緯

2 - 1 ニセコ町の位置、人口、気候
北海道のニセコ町には冬のリゾート地で有名なニセコラフ国際スキー場ニセコモイワスキーセンターニセコアンスキー場ニセコスキー場がニセコアンスキー場の東斜面にある。これはニセコ稲穂小樽海岸国定公園に属している自然環境に優れている。町域は東西20.1km南北19.0kmで総面積は197.13kmである。人口は約4560人で近年横ばいである。

気候は内陸性であり冬期の積雪は2mにおよぶ豪雪地帯である。

2 - 2 ニセコ町の産業
もちども広大な農地をもっており農業人口比率は高かったが1990年平成2年か らサービス業人口の方が大きくなった。これは
1960年（昭和35年）から頃著になった過疎化現象による人口流出の一方で、良質の雪と斜面にめぐまれた東洋のサンモリッツと称される大規模な上記のスキー場や、山麓に点在する温泉を当地に約130万人の観光客が入り、約30万人が宿泊するようになってきたからである。

2-3 ニセコ町本通街なみ環境整備の歴史
ニセコに来る観光客は温泉およびスキー場近くのホテル・ペンション・旅館に宿泊し、スキー場から約5km以上離れたJRニセコ駅近くにあるニセコ町本通は札幌から車で来るスキーキャラクター道に在るが、素通りで、観光客からは無縁に写る町であった。筆者の記憶でも2001年（平成13年）道路拡幅工事と最新の街なみが出現するまでは、北海道でならどこにでもあるような地町であり、商店街が数々あればも活気はなさそうに、デザイン上の工夫も色もなく、車を止める注目すべきポイントもなかった。

ニセコ町発行の「ニセコ町街なみ環境整備事業」のパンフレットによると、こうした状況の中で1988年（昭和63年）ニセコ町本通からJRニセコ駅のある谷をつなげてスキ－場方向に直通するニセコ大橋の工事が始まった。これを契機にニセコ町本通を何とかしようという気運が盛り上がり1990年（平成2年）7月「ニセコ町街まちづくり推進協議会」を設立している。これは商工会に属する青年会が中心となって設立しており、本通2・3町内の住民協力者から設立されている。ここでは「町によりある街づくり」について協議検討されている。

1991年（平成3年）「ニセコ町魅力ある街づくり基本構想」を策定している。

1992年（平成4年）「ニセコ町本通商店街商業活性化基本計画」を策定。

同年「ニセコ町まちづくり推進協議会」を設立されている。ここでは「本通商店街商業活性化」について協議検討にあり、1990年にうるおいのある街づくりについて協議検討に入り。1992年には本通商店街商業活性化について協議検討にあたっている。さらに東北新幹線の開通に伴う交通の整備にあたっている。
図1

出展：「ニセコ町街なし環境整備事業」より作成

- 73 -
図2

街なみ環境整備事業（整備前の状況）

街なみ環境整備事業（整備後の状況）

出展：「ニセコ町街なみ環境整備事業」より作成

- 74 -
生活から生まれる良質な環境デザインの研究②

北海道開発コンサルタントは23m幅の道路の拡幅デザインと道路上の付帯施設である①
街路灯①標識板①バスストップ①ゴミステーション等のデザインを手掛けている。（図1）

1996年[平成8年]3月①国の認定事業である「街舗環境整備事業」にニセコ町街舗環境整備事業が認定を受けていた。これを受けた同年3月「ニセコ町本通地区景観整備計画」を策定し①ニセコ町景観形成地区
として本通地区を指定し①「本通地区景観形成基準」を策定した。さらに「ニセコ緑街
道推進協議会」内に住民会議を置き①「緑街
道街づくり協定」を締結し①住民会議内に
「街づくり協定連絡会」を設立する。「街
づくり協定連絡会」を基準設立の基礎の一つである。同年6月「補助金交付決定案」
を制定し①補助金申請をする基盤を作り①住
民の資金負担を少なくして①環境整備を推進

1998年[平成10年]電線敷の地中化に合意している。これにより道路敷に大きな要因であ
る電柱①電線敷緑街道からなくなることの
意義は大変大きい。

2002年[平成14年]緑街道街舗延長完成

2－4ニセコ町まちづくりの基本姿勢
「住むことが魅力に思えるまちづくり」を
テーマとして①次ぎの6つの目標をかかげて
いる。
①情報発信するまち
①住民の意見が反映されるまち
①住民の視点に立って考える行動する職員づ
り
①自由に議論し①住民と職員が共に学ぶ場づ
り
①住民がニセコを愛する
①住むことに誇りと愛着が生まれる
まちづくりの基本姿勢は大変分かり易い。住

民主体に住むことを育て①住民自ら住むことに誇
りと愛着を共有するまちづくりを掲げている。

これはニセコ町長である逢坂誠二氏の基本的
考えと関係しているであろう。町長に熱意が
ある①住民との信頼関係が良好なので①この
事業がスムーズに遂行して行った事を指摘す
る声があった。

2－5ニセコ町街舗延長ガイドライン方針と

基本方針と方法は①以下の特徴がある。
①道路：緑道緑道区間730m非舗装23mへの
道路拡幅事業と店舗併用住居等の建て替えを
「街舗延長ガイドライン」[表1]のルール
に従って整備する。
①共通フレーム：木製の素材を生かし①共通
の街舗延長ガイドライン

を制定し①補助金申請をする基盤を作り①住
民の資金負担を少なくして①環境整備を推進

の街舗延長ガイドライン

に沿った建築設計の具体化に備えるのであ
る。同年6月「補助金交付決定案」
を制定し①補助金申請をする基盤を作り①住
民の資金負担を少なくして①環境整備を推進

した場合の基準である。また住居区においては①木の化粧材など①木を基調とした住居

の街舗延長ガイドライン

に沿った建築設計の具体化に備えるのであ
る。同年6月「補助金交付決定案」
を制定し①補助金申請をする基盤を作り①住
民の資金負担を少なくして①環境整備を推進

の街舗延長ガイドライン

に沿った建築設計の具体化に備えるのであ
る。同年6月「補助金交付決定案」
を制定し①補助金申請をする基盤を作り①住
民の資金負担を少なくして①環境整備を推進

の街舗延長ガイドライン

に沿った建築設計の具体化に備えるのであ
る。同年6月「補助金交付決定案」
を制定し①補助金申請をする基盤を作り①住
民の資金負担を少なくして①環境整備を推進
<table>
<thead>
<tr>
<th>協定項目</th>
<th>協定内容</th>
<th>諸物用途</th>
<th>商業兼務住居</th>
<th>概要</th>
<th>補足資料</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>街並みの連続感の確保</td>
<td>1階の高さがH3.6mを基準とし、2階の高さについては自由とする</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>落書き対策</td>
<td>窓ガラスの歩道部分及び階接部分に塗らないよう工夫する</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>建物のデザイン</td>
<td>屋根は鉄骨とし、鉄板屋根又は波板屋根にすること。壁の色は地に近接し、色味とする。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>外壁は木製又は板張りのサイディングを取り入れる。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>商業及び業務施設の1階の建物の形態を最善にし、自然な形態をとれるようにする。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>木製又は金属製の形態を取る。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>街並みの連続感を演出するが、木製又は金属製の形態を取る。</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

出展：「ニセコ町街並み環境整備事業」より作成

- 76 -
生活から生まれる良質な環境デザインの研究（2）

道の気候や風土は、建築物の寿命を極めて短命なものとする事から、耐久性の高い構造（高断熱・高気密）としていく事が絶対条件である。この事は「街並み形成ガイドライン」にはなかった、駐車スペースの確保及び車庫のデザインの取り決め。

自動販売機は、道路側への単独設置は認めず、建物の1階部分に組み込むようにする。

道は道路境界には、建物を分ける、するものとするが、雨や雪が降らない場合は60cm以下の高さとする。としている。

どの項目も現在日本で考えられる範囲で、美的な環境デザイン理念と方法であると思われる。

2-6 ニセコ町街並み建設実行

これらを実行する為に補助金を用意している。（表2）

住民は道路拡幅に伴う道路用地立ち退き料の全21億2,000万円を受け取っているので、自己資金が少なくてても新築がし易くなっていく。既存の住宅や店舗併用住宅が道路拡幅によって削られる場合は、新築する事になるが、この機会にニセコ本通から移転した世帯も少数あった。残った世帯の9割が新築をし、1割がともと道路から離れていたため既存の住宅に住んでいる。

新築をする場合には、「街並み形成ガイドライン」に沿った建築設計をする義務があり、市街化する事に協定運営委員会」で選んだ札幌の4設計事務所の中から1つを選べる設計活動することになっている。

設計された建築物は、設計の段階で「街並み協定運営委員会」でのチェックを受ける許可されて建設に入っている。したがって住宅メーカーの設計建設や、4社以外の設計建設は協定上不可となっているので「ガイドライン」に沿った街並みが形成されることになる。

しかしながら協定は強制政策ではないので、実際には3軒の住宅メーカー建設があり、さらにガイドラインに沿った修景になる様に、常に監視の注意が払われている。

| 表2 ニセコ町助成の一覧 |

<table>
<thead>
<tr>
<th>助成の種類</th>
<th>区分</th>
<th>助成の対象事項</th>
<th>助成の額</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>街並み形成設備整備に対する助成</td>
<td>建築設計費</td>
<td>建築設計に要する費用に対し助成</td>
<td>一定基準の建築設計費の3分の2以内</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>景観形成に関する設計計画に従って行われる住宅等及び宅地等の修景を行った場合に要する費用に対し助成</td>
<td>住宅等の新築、増築、改築及び大规模な修繕で街並み形成ガイドラインに基づき施工する場合に助成</td>
<td>○の場合</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>既存住家等の修景を行う場合に要する費用に対し助成</td>
<td>既存建物の修景を行う場合に実施工事費を助成</td>
<td>以外の場合</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>建築設備等設置費</td>
<td>住宅等の屋外に露出し景観を阻害する給排水設備、空調設備、電気設備等を除去し、新たに設置する設備等に対し助成</td>
<td>数量8万円、3分の2以内</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>緑化等の整備費</td>
<td>住民の指定の色彩修景費に対し助成</td>
<td>いずれの場合も限度額80万円以内</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>公道の境界に街並み形成設備を設置する場合に要する費用に対し助成</td>
<td>施工の物件補償費相当分については控除する</td>
<td>利子助成対象限度額 2,000万円</td>
</tr>
<tr>
<td>中小企業者の持続的近代化のために備えた施設に対する助成</td>
<td>利子助成</td>
<td>金融機関から長期の国債の制度資金及び公的資金の融資を受けて近代化を行う場合に利子助成</td>
<td>利子助成の割合 2.0％</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>施工の物件補償費相当分については</td>
<td>利子助成期間 10年以内</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

出展：「ニセコ町街並み環境整備事業」より作成
設計事務所が受け取る設計管理料率は以下のようにしてい

<table>
<thead>
<tr>
<th>建築工事費</th>
<th>設計料率</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1000万円〜1500万円</td>
<td>7%</td>
</tr>
<tr>
<td>1500.1万円〜2000万円</td>
<td>6.5%</td>
</tr>
<tr>
<td>200.1万円〜3000万円</td>
<td>6%</td>
</tr>
<tr>
<td>3000.1万円〜4000万円</td>
<td>5.7%</td>
</tr>
<tr>
<td>400.1万円以上</td>
<td>5.6%</td>
</tr>
</tbody>
</table>

住民側への国及び町からの補助金は1で建
築設計料に関するものと2で修景工事に関
する補助と2つを用意されている（表2）。

1で施工管理を含む建築設計料に関する住民
側への補助金は1建築設計料の2/3以内であ
り上限120万円までとなっている。
例えば3000万円の建築工事費の場合は設計料
率は建築工事費の6%であるので設計費は
180万円となる。この内2/3の120万円が補助
金として賃われ残りの60万円が住民負担と
なる。

2で修景工事に関する補助では1建築工事に
対して1ガイドラインに沿った修景上の諸設
備である1グリルシャッター1木製ドア1窓枠
窓台1芝生化1着色等への工事補助金
である。それぞれの修景単価の2/3以内1限
度額80万円まで補助されている。

建設工事は地元の建設業者がこれに係わる1
設計事務所の新たな設計にかかわる施工技術を
獲得することになるし1収益にもよい結果に
なる。

「街並み形成ガイドライン」には1・看板
等の屋外広告物の項目があり1協定内容は1
「各店舗の個性を演出できる看板とする。素材
は1鉄1木1と1メーカー支給品は使用し

図2 店舗看板

図3 店舗看板

図4 完成した街並み（歩道）

図5 完成した街並み（店舗併用住宅）
生活から生まれる良質な環境デザインの研究②

表3 ニセコ町外観調査 (2002年10月12日)

<table>
<thead>
<tr>
<th>番号</th>
<th>種類</th>
<th>付加特徴</th>
<th>受けた感</th>
<th>設置場所</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>西側</td>
<td>1</td>
<td>商店</td>
<td>単組建物1台+広告のぼり旗2台</td>
<td>色揃い設置場所揃え</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2</td>
<td>商店</td>
<td>連続所の看板1台+広告のぼり旗1台</td>
<td>少々目立つ</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3</td>
<td>商店</td>
<td>広告のぼり旗2台+サポートブロック2台+花壇</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>4</td>
<td>商店</td>
<td>自動販売機1台+広告のぼり旗2台</td>
<td>ビール類のプラスチックケース</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>5</td>
<td>商店</td>
<td>なし</td>
<td>問及なし</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>6</td>
<td>商店</td>
<td>鉄の白色機、すぐ</td>
<td>収穫状態</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>7</td>
<td>商店</td>
<td>花ポット多数</td>
<td>美しく不調和</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>8</td>
<td>商店</td>
<td>広告のぼり旗5台+サポートブロック5台</td>
<td>目立つ</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>9</td>
<td>商店</td>
<td>なし</td>
<td>問及なし</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>10</td>
<td>商店</td>
<td>なし</td>
<td>問及なし</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>11</td>
<td>住宅</td>
<td>塩掛け数</td>
<td>少し歩道にみ出す</td>
</tr>
<tr>
<td>東側</td>
<td>12</td>
<td>商店</td>
<td>水やりプール巻き・道路工事用円盤形ガード</td>
<td>不調和</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>13</td>
<td>商店</td>
<td>鉄の白色テーブル4個</td>
<td>不調和</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>14</td>
<td>商店</td>
<td>花ポット1台+プラスチックケース</td>
<td>少々目立つ</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>15</td>
<td>商店</td>
<td>なし</td>
<td>不調和</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>16</td>
<td>商店</td>
<td>花ポット多数</td>
<td>不調和</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>17</td>
<td>商店</td>
<td>のれん+花壇</td>
<td>調和している</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>18</td>
<td>商店</td>
<td>広告のぼり旗1台+サポートブロック1台</td>
<td>不調和</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>19</td>
<td>飲食店</td>
<td>なし</td>
<td>問及なし</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>20</td>
<td>飲食店</td>
<td>のれん+花ポット5</td>
<td>問及なし</td>
</tr>
</tbody>
</table>

3 建設後のニセコ町「綺羅街道」普段生活の外観調査

街路は完成した。図4・5・6完成後も、「街路形成ガイドライン」に沿って平野が監督して整備にあたる。}

なかったがそこで景観上大きな効果として挙げておきたいことがある。「ニセコ花フェスタ2002綺羅街道」であり、「街路形成ガイドライン」では、『台や道床図はフラワーポットを置く場所をもうける』となっているがここに北海道が推進するフラワーをまちづくりを指導するフラワーマスター認定制度があり綺羅街道内に居住する4人のフラワーマスターボランダーを中心とする住人が公共的なの毎日の花管理と、綺羅街道住民による花ポット類の設置によって美しい街が生まれ出されることである。

7月の調査時には別6mの広い歩道に誰でも座れる白い鉄製のテーブルと椅子が置いてある公共の良い環境を作り出していた。10月に実施した「表3ニセコ町外観調査」の結果は次の通りであった。住宅型軒に関しては全く問題なく環境を乱すもの
は置いていなかった。1軒家であり、道路に置いていた例があったが、二世帯は「ニセコ花フェスタ2002緑葉街道」に参加して多くの花がポット等で飾られている。これを見に立ち寄る観光客も多く、良好な思える行為である。

商店は、建物建築本体は良いものの、後に及び、人為的に置いていた物の中には、環境的配慮の薄い行為がみられた。

広告のポスターとそれをサポートするコンクリートブロックもある。広告のポスターは、日目立つように彩度が高く、派手であり、目標で彩度を低くした緑色系の建築物との調和を損ねている。計画及び建設時に、のぼりを立ててはいないという協定はなかった。

ビール・清涼飲料のプラスチックケースが積まれている状況は、不調和を感じさせる。

自動販売機も各自の色彩がばらばらで派手であり、不調和である。

これらが置かれている場所は、1m後退している壁面セットバック地や駐車スペースであり、私有地であり法的な問題はないが、景観的には問題を感ずる。今後の住民会議による討議で解決を計っていきたい問題である。

4 パーフォードの外観デザインの特色

・自動販売機なし
・のぼり旗なし
・プラスチックケースを表側には置かない
・バラ等する植物類の植え込みが壁を彩る
・歴史性を感じる石レンガ壁
・玄関窓枠のデザイン工夫
・スレートの屋根材の選択があり他の家と連続的である。
・建物の高さがほぼ均一で連続的である。
・100年〜500年の建物であり、るようにある。
・全体に調和がある街並みである。

これらの特徴から浮かびあがることは、イギリス人は、見栄えの良い場合が多いことだ。ただ目立つだけの見栄えではない。他の人々の目から見ても、持ち主のセンスを残して見えることが重要である。見栄えの中に、人の感覚を通じての印象である。ここままでしたケース類を人目のつくところに置く事は、感覚を通しての印象では、美術的な能力を駆使した応用と推奨される。

図6 パーフォードの街並み

図7 バラの生け垣 パーフォード
5 ニセコ町及びバーフォード自然環境の相違が建物に及ぼす影響

北海道であるニセコ町の置かれている自然環境は北北国との厳しさで直面している。冬期には10°以下にこともなる厳寒の地では、凍結・結露・すがもりの状況が断熱性能との関係で絶えず厳しく、建物に影響を与えている。豪雪地帯であるこの地は、積雪荷重を気にせねばならないし、雪下の木質部分の腐りや、地圧雪による負担も無視できない。北海道は家が痛み易いのである。

一方イギリスのバーフォードの自然環境は温暖である。緯度的にはイギリスの方が北に位置していても、冬期に0°を下回ることはほとんどなく、雪の降ることもまれである。降ったとしても、数cmの積雪で、凍結・積雪の被害も計算しなくて良い程である。そうでなければ500年も家がつまったことは考えにくい。

バーフォードの住宅の屋根には重いスレート石が載っていて、屋根の稜線をへこませて趣き深いがニセコ町であればただに積雪・結露を内部におよぼすだろう。さらに積雪により、割れ・すがもり・スレート石の落下がおこらであろう。バーフォードの地方性豊かな住宅の石造壁も断熱材や通気層を作っていないので、もしニセコ町であれば暖房しても室内は寒いはずである。しかも暖房することによって結露に悩むはずである。以上の事をとらえれば、ニセコ町は建物への条件が厳しく、短命にはなるが、メンテナンスを繰り返ししても残したい家と街みななのかということが重要である。

6 日本の文化面の事情

江戸時代末期から明治時代に日本に来た西洋人には日本での住居を含んだ風景環境は特別美しいものと書っていた。フェリックス・ペアト写真集の「幕末日本の風景と人びと」をみると、開港約4ヶ月後の横浜に1859年に入港したアメリカ人宣教師S.R.ブラウンの第一印象が以下のように記されている。「この湾に入って来た時、誰でもその風景の美にうれわれた者はありません。前には海岸線に沿って、長く続く町があり、一つ一つ広い通りがあって、その背後に絵のような低い丘があり、その後ろに、まただらかに、立派に耕されている畑があり、河川、上流の山よりもほんとにはるかに高く、雪をいただく富士の秀嶺が見えます。天気の風景をたたえるものは、人間の手になる最も美しいものと感じてながめることでしょう。」街舎だけではなく、自然と一体化された日本の美しさを絶賛している。またペアトの写真を見ても、当時の東海道や箱根宿、図8のように美しさが良くわかる。

図8 ペアトの撮影した箱根宿

出典：「幕末日本の風景と人びと」より作成

このように西洋人を感心させた日本独特の風景も、第二次大戦後の半世紀の間に日本人の生活方法の変化と共に一変してしまった。生活の欧米化で、昼の上に座る生活をしていた日本人は今や、椅子とテーブルの生活になり、ふとんを敷いて寝ていた生活はベッドの上で寝るようになり、平戸服は和服から洋服へと変化してしまった。住宅も木造もあり、コンクリート造りもあり、これでは機能本位の四角のオフィスビルが加わり、車社会の到来で日
本は目的の対応におわればなしの対策で一定の景観ルールも定かではない混乱に入ってしまった。日本独自の街なみ環境がすぐにた今後の練りをお経手目の創造性をもって街なみ環境を構成し直す状況になっている。その結果は次のようである。

7 結 論

ニセコ町とバーコードのかかっている状況デザインエレメントの挙動を通じてかこの町の良き街なみを構築するためには以下のが必要であることが分かった。

別図2 〇ニセコ町街子会議 組織図

出展：「ニセコ町街なみ環境整備事業」より整成〇
生活から生まれる良質な環境デザインの研究

していない間は専門家によるデザイン上の一定レベルを確保する必要がある。

リンク手の側のデザインセンスを高める教育が必要であり、それは芸術教育が一番ある。明治以来芸術教育を重要としてこなかった歴史が日々の良質ではないレベルを作ってしまう。

最後にニセコ町役場づくり推進課の黒瀬敏雄氏の御協力に感謝いたします。

本研究は「2002年度北星学園大学特別研究費による研究」である。

出する「花を核とした産業クラスター（花クラスター）」の普及に努めている。ニセコ町
もフラワーマスターが20人程、2002年が立って、その内5人ほどが縁築業内に住民であり、花のボランターとして花の植え付け日々の管理につとめている。

(8) 横浜開港資料館編「幕末日本の風景と人びと」
明石書店 4 1987
フェリックス・ベアト Felix Beato 1825-1904
以降不明 日本住民1863年〜1885年頃まで

(9) 梅原猛「芸術の意味」平成8年私立短期大学
美術・デザイン教育担当教職員研修会報告書
8-6 1997

[注]
(1) 北星女子短期大学設計38号「「英国田舎町の環境
デザイン」小林啓明 35-43 2002を参照
(2) 「黒溝イワガ協議会」[千葉県長建築]が建て替え検討している家主の協力で町家保存に取り組んでいる。
(3) 「ニセコ町街つなぎ環境整備事業」北海道ニセ
コ町発行
(4) 「北海道開発コンサルタント株式会社」2001
年企業株式変更で現在は「株式会社ドーコン」
コンサルタント業を創立：昭和35年
6月1日成立 資本金：6億円 職員数714
名・建設業に「札幌コンサートホールkitara
「仙台スタジアム」「室蘭市有数大橋」「キロ
ロリゾート」等がある。都市部門に「まちづくり計画」ももっている。
(5) アトリエ・アク（街づくりコンサルタント）
画工房 松橋設計事務所 平尾建築設計事務所
(6) ラム工房 沢田正文
(7) 北海道建設部まちづくり推進課では地域に
おいて「花のまちづくりを指導するフラワーマスターを認定するなど「花を生かしたまち
づくり推進しており「花の資源を核として「産業との結びつきを見出し新たな事業を創